

神余地区ハイキングコースマップ



⑨金明社

道洞
大井戸

大山祇神社
●山下の地蔵

回國塔

旧松野尾寺の地蔵

旧来迎寺の地蔵

智恩寺

塩井戸
●塩井戸橋

ふらあい神余の里

久所の地蔵

●裏面の地蔵

●原の堂

●逸端の滝

●上大倉の地蔵

●浅間神社

●自性院

●神余青年館

●金丸跡

●神余小学校

●日吉神社

●展望台



分歧点

●焼焼き窯

コース案内

八犬伝伝説コース

奈良時代にいた神余の豪族、金丸家に伝わる神余家累代艦に残る26代金丸景貞から始まる記録は、まさに滝沢馬琴の書いた長編小説「南総里見八犬伝」のストーリーそのもの。創作ではなく史実として残る、金丸城・山下城・自性院などを巡るコースです。

源頼朝・弘法大師伝説コース

源頼朝が伊豆を追われ辿り着いた南房総。各地域に頼朝が辿った痕跡があり、神余地区にも、中間家・大井戸・手負いの家臣を手厚く弔った金明社などがあります。同じく弘法伝説もあり、塩井戸・来迎寺・大師講跡などもあり、そんな伝説を辿るコースです。

林道コース(約6km)

神余地区の特徴でもある里山と棚田を巡るコースです。神余地区最高峰の京塚山や浅間神社、古道と一緒に成了った林道は落葉を踏み締めながらの山道です。里には、棚田が広がり、四季折々の景色を見る事が出来ます。特に五月、スマジイの新緑で山全体が黄金色に輝きます。

尾根コース(約4km)

かつて有名な日吉神社の後背に連なる尾根伝いのアップダウンの少ない家族連れにも向いているコースです。マテバシイなど様々な植生、木々の間からこぼれる日差し、吹き抜ける風をお楽しみください。分岐点から林道コースに回るとさらに変化を楽しめます。

神余地区尾根コースイラストマップ

【加藤エリア】

加藤エリアには、山間を流れる小川があり、夏頃にはゲンジボタルがあわい光をはなちながら飛びかいます。水田は棚田状になつていて、自然の豊かなを感じさせてくれる場所です。



【神余城跡】

平安時代の終わり頃から室町時代までいた豪族神余氏の本拠。神余小学校が神余氏の居館跡と言われています。

「房総里見軍記」等によれば、嘉吉元年(1441)頃、安房には神余氏・東条氏・安西氏・丸氏の四氏が分立していました。神余光孝(景貞)は家臣の山下作左衛門景胤(定兼)の謀反により殺害され、その領地を横領し山下郡と改めました。これに怒った安西氏・丸氏が神余城を攻め、山下氏を攻め滅ぼしたと言われています。

金丸城跡

神余小学校

日吉神社

展望台

【マテバシイの森】

マテバシイは、ブナ科の常緑高木。日本南部の山野に自生し、公園などにも広く植栽されるブナ科の常緑樹。果実(どんぐり)はあく抜きせずに食べられるので、縄文時代人の重要な食糧であったとみられ、千葉県加茂の縄文前期の貝塚からは、歯型のついた果実が出土しています。



【日吉神社】

神余地域の鎮守。祭神は、大山祇命。延暦23年(804)、神余に居城を構えた金丸氏により農工商の守護を祈念して創建されました。7月19日・20日の例祭で館山市無形文化財の「かっこ舞」が奉納されます。「かっこ舞」は、頭に獅子をかぶり、腹につけた太鼓(かっこ)を打ち鳴らしながら踊り、雨乞いと五穀豊穣を祈願する神事です。



【分歧点】



尾根コースと林道コースの分歧点。林道コースを回ればさらに多様な自然を味わえます。

【平田エリア】

谷津に広がる棚田などの豊かな自然。昔懐かしい田園風景を味わえます。

